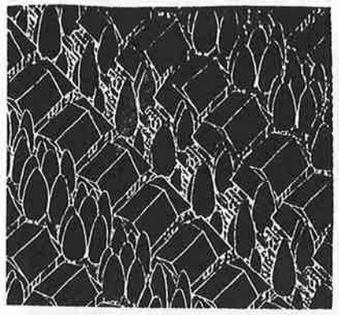
シリーズ 隠れた建築紹介 ～金沢の足軽屋敷～



10年ほど前、金沢の旧城下町を歩きながら、ふと一軒の町屋を覗いたことがある。ところがむしろ、そのお宅の親戚に足軽の子孫が居り、今も古い屋敷に住んでいると聞いて興味がそそられた。早速その足で、足軽屋敷を訪れてみた。その後、今だに知られていない足軽屋敷や武家屋敷が、他にも残っているのではないかと探し始めた。その結果、足軽屋敷に絞っても、藩政期のものを20戸弱、明治初期のものも20戸程度を発見することができた。

足軽の敷地は、50坪と定められて均一であり、10戸一組の整然とした家並みを、表、裏に、幾重にも並べ、大規模な場合、300戸を超える大集団を形成していた。ただし、他藩の足軽屋敷が長屋形式であるのに対し、金沢の場合は、小規模ながらあくまでも一戸建ての独立形式であった。

足軽屋敷は、土塀が許されない代わりに、杉・ムクゲなどの生け垣で囲い、簡素な門を立て、その内を僅かながらも前庭として植栽していた。屋根は武家に共通したいわゆるアズマダテも見られたが、板葺き石置きで勾配が緩く、かつ建物間口が狭いため、全体は低く小ぶりな印象である。間取りはきわめて一定で、明快に２列３段の主要室構成をとっていた。玄関側が座敷を主体とした「接客・格式」空間列であり、今一方は、台所、茶の間、寝間が連なる日常生活空間列であった。

その後、急速に足軽屋敷も取り壊されており、現在、現地に残る藩政時代の良好なものとしては、僅か４戸程度を数えるに過ぎない。　　―広報部会・増田達男

北陸の秋まつり情報

○夢の平コスモスウオッチング(10上旬～下旬)砺波市
○晩秋の薬師岳を楽しもう／薬師岳感謝祭(10/15～16)大山町観光協会
○“どーんと利賀の山祭”で利賀村の秋を楽しもう(10/22-23)利賀そばの郷
○おおしま絵本のつどい(11月中旬)大島町絵本文化振興財団
○庄川“ゆず”まつり(11月中旬)庄川町
○ほうらい祭り(10/2-4)鶴来町、旧市街
○蓮華山大相撲(10/17)志雄町、蓮華山相撲場
○いどり祭(11/7)能都町、鵜川
○ばっこ祭(11/17-21)鹿西町、能登部神社
○こしの大漁秋祭り(10/8-10)越廼村蒲生地区、茅崎地区
○織田まつり(10/9-10)織田町織田・剣神社境内
○第26回古城まつり(10･16)丸岡町谷町、本町通り
○'94三大朝市物産まつり(10/22-23)大野市七間通り
○元善光寺菊人形と菊花展(10/15-11/15)飯田市座光寺元善光寺
○ふるさと馬籠ごへー祭(10/30)まごめ自然休養センター
○文化文政風俗絵巻行列(11/23)南木曽町妻籠
○八海山火渡祭(10/20)南魚沼郡大和町八海尊神社
○越後いといがわ塩の道の旅(10/22-23)糸魚川大町塩の道起点より出発
○弥彦菊まつり／日本最大規模6000点出展(11/1-24)西蒲原郡弥彦村弥彦神社

支部インフォメーション

■新潟支所主催事業［親と子の建築講座］
講座３「割りばしと紙とで作るアーチとドーム」
講師：斎藤公男（日本大学教授）
11月12日（土）午前10時－12時
会場：新潟県立自然科学館講堂／参加対象：小学校高学年以上／定員：60名／参加費：無料／申込方法など詳細は「建築雑誌」で紹介予定。

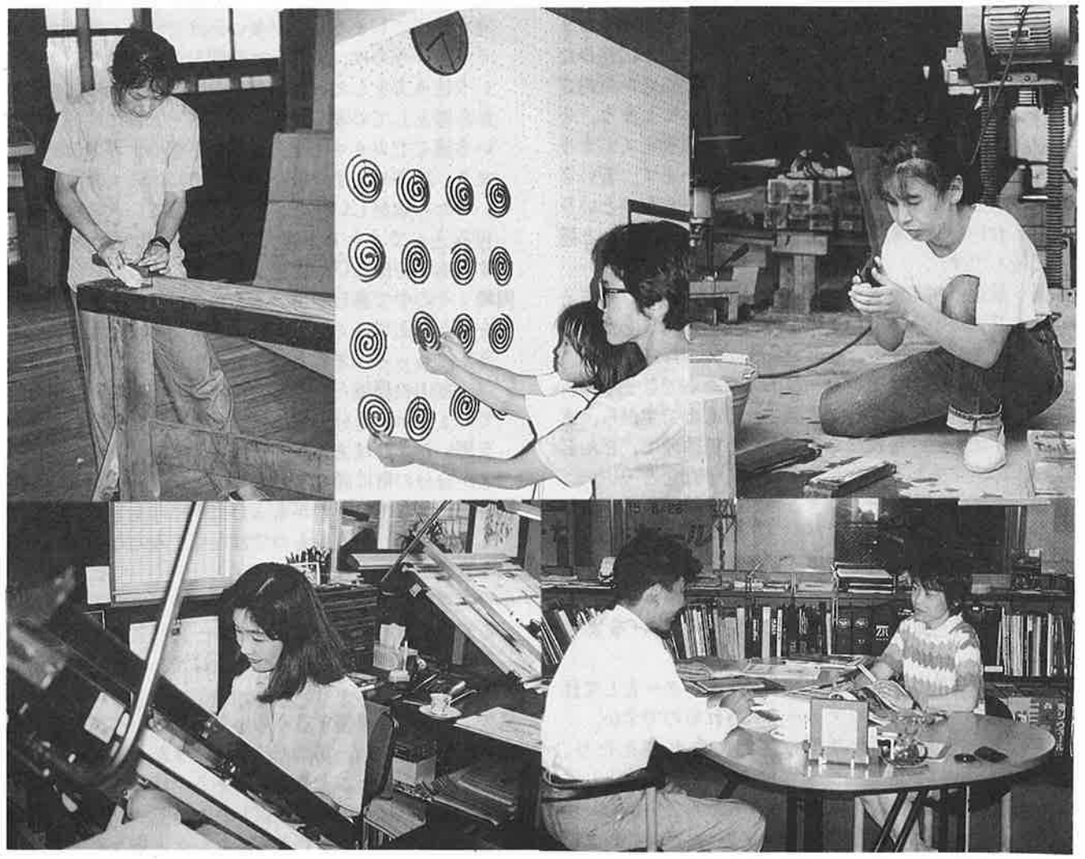
事務局あいさつ

世間では、円高不況が続く中、企業では徹底したリストラ、リエンジが行われています。また、明治以来の日本の社会構造が崩れはじめ、あらゆる面での変革がはじまっています。私達個人も意識改革が必要となってきました。我が建築学会北陸支部事務局もそうした眼で改革を進めていく必要があるでしょう。北陸支部ニュースも第２号の発刊となり序々に体裁も整ってきました。私達事務局（北陸生活にすっかり馴染んだ村井と新婚ほやほやの久保）も北陸支部発展のために微力ながら力を尽くしたいと思います。よろしくお願い致します。
――支部事務局・村井義則、久保香里

日本建築学会北陸支部ニュース「ＡＨ！」第２号
発行日　１９９４年１０月１日
発　行　日本建築学会北陸支部広報部会
木原　隆明（新潟）　尾久　彩子（富山）
河内　浩志（石川）　増田　達男（石川）
桜井　康宏（福井）　五十田　博（長野）
事務局　村井　義則・久保　香里
〒920 金沢市玉川町５－１５
TEL 0762-20-5565　FAX 0762-60-1502

AH! HOKURIKU 第２号

特集
働く女性も大いに語る



支部ニュース「ＡＨ！」の第２号をお届けいたします。異常ともいえる暑さに広報部会も打ちのめされた形で、発行が１カ月の遅れとなってしまいました。お許しください。「女性と建築」を年間テーマとした第２回の特集企画として、今回は富山で働く女性にお集まりいただきました。設計士、インテリアコーディネーター、大工、高校教師、さらには華道師範という多彩な面々の奔放な議論の中、唯一男性として傍聴していた私（広報部会長）などは、話が「男と女」の話題となり、男の立場が不利と判断するやいなや、「最終電車」を理由にいそいそとその場を逃げ出すはめになってしまった……という中身の濃い議論にご注目ください（ただし、３時間に及ぶ貴重な議論の記録を約半分に圧縮整理した責任も広報部会長の独断であることをお断りしておきます）。

働く女性も大いに語る

富山の住宅を斬る

尾久：今日お集まりの皆さんは何らかの形で「住まい」に関わるお仕事をされています。岡崎さんは6年前に東京から富山に来られたわけですが、富山の住宅についてどのような印象を……。

岡崎：どういう風に暮らしたいのかが見えない。子供が生まれて小学校に行く前に家がほしいと思ってしまう。器だけあればいいということで、**いかに住みたいかは二の次三の次**で、予算でいろんなことが制約されて、結局新興住宅地のような家が建ってしまう。それから、結婚する時に家具や食器を全部揃えてしまうとか、こういう考え方もおかしいと思います。若い2人がお互いの趣味の中であーしたいこーしたいという話し合いをして順番に揃えていくものじゃないかと感じるんです。

小見：最近の住宅を見ていると季節感がないんですよね。昔は田の字型で、夏になったら襖も障子も全部外してスダレをつける。そういう家が無くなってきた。敷地の狭さやプライバシーのこともあるでしょうし、冷暖房化されてきて外に放熱されるものですから、ますます窓が開けられなくなるという悪循環で、どんどん季節感を味わう場所が無くなってきたなと……。

京谷：スダレを下げたりできるのは、時間的余裕があるからじゃないんですか。

小見：本当は時間はあると思うんです。心にゆとりがないのかな。家を建てたから共働きしなくちゃ、だから時間がない、そういう風にこじつけているような……。

尾久：坪本さんはインテリアコーディネーターとして仕事の中ではどのようにアドバイスされるのですか。

坪本：カーテンなどを季節に応じて取り替えたり、ちょっとした小物で変化をつけることをお勧めします。居心地よく住むためにはどうしたらよいかを一生懸命考えることが大事だと思います。ただ、心地よいという体験がない限り本当の快適さは分からない。

京谷：**生活者としての体験が乏しいんですね**。快適さが分かるというのは、生活者としての経験が出来たところで欲求が出てくるというか……。

小見：若い二人が結婚して、とりあえずすぐ器としての家を建ててしまうことが多いわけですが、ライフスタイルというのは、お互いに時間をかけてみないとどういう住み方をしたいのか分からない。それが結婚するから器としての家を買おう、じゃーどれにする？　という感じでカタログで、ほとんど夢の世界で決めてしまう。結婚してすぐ家をもつのは富山の人の風習っていったらおかしいけど、やはり家っていうのは生活を包み込んでくれるものであって、**器に合わせて生活するものではない**…と思うんですね。

岡崎：その中で暮らしているというだけじゃなく、そこをどう考えていくかということが大事ではないでしょうか。もっと住まいというものをグローバルに考えれば、富山の環境というものが分かってくるんじゃないでしょうか。自分の生まれ育った環境を守りたいという思いがあればある程度守れますよね。まず、富山だとか自分の町に誇りをもって……。

京谷：土地っていうのがもっと公平に与えられないんでしょうかね。個人のものではなくてみんなで使うという意識が必要だと思います。

小見：ウチの近所でも、狭い敷地に車が4台とまっている家があります。例えば団地の一角に共同駐車場のようなものを作っておけば草木をはやして潤いのある空間を作れるんじゃないかと。

尾久：**持家率を自慢するくらいならそういう環境を自慢したい**ですよね。富山だけなんですかね、こういう家を建てるということに執着があるのは……。

京谷：富山県は西山先生の言われた「見せびらかし」型の家っていうのが多いんじゃないかと思うんですね。自分の家を建てる時もいろいろアドバイスされる方がおられて、「座敷はこうしなくちゃ」とか「壁は赤い方が格がある」とかいろいろ言われました。

北電産業株式会社
一級建築士事務所

本　店　富山市牛島町13番15号　☎0764-32-4274
石川支店　金沢市本多町6番丁11番地　☎0762-21-5311
福井支店　福井市日ノ出町1丁目4番1号　☎0776-27-1210
志賀支社　羽咋郡志賀町字赤住1　☎0767-32-2900

職人ルネッサンスを目指して
素晴らしい環境での“職藝人”の育成

平成8年4月開校
富山国際職藝学院
建築職藝科（建築・家具・建具コース）
環境職藝科（環境・造園コース）
（お問い合わせ先）
〒930 富山市新桜町8-1 三四五建築研究所内 TEL(0764)33-0345

岡崎真砂さん
（草月流師範）

小見美由紀さん
（Korni建築設計室）

京谷久代さん
（伏木高校非常勤講師）

坪本としえさん
（インテリアコーディネーター／㈱米三）

ものづくり・本物へのこだわり

尾久：八島さんと清水さんは八尾の工務店で家具を作っておられますが、どんな動機で……。

八島：高校時代に高岡短大の木工展で感動を受けて、短大に入って先生の影響を受けてやってみたいなと。

清水：建築の方はよく分かりませんが、今の工務店で建てた家を見て「住みよい家とは？」などを少しづつ考えるようになってきました。それまでは大きな家がいいとか、きれいな家がいいとかしか思っていなかった。

京谷：実際に建てられる家はどんな家なんですか。

八島：昔ながらの白壁造りで柱とかもむき出しで……。

清水：工法は昔ながらなんですけど、やり方は新しい。

八島：壁にステンドグラスをはめ込んだり、新しいことにもチャレンジしています。

尾久：その中で家具はどのように……。

八島：**その家にあった大きさとか色とか形があると思います**。奇抜なデザインに走ってしまわないようにシンプルで頑丈なものを考えるようにしています。

尾久：棟梁のところっていうと何か古いイメージがあるように思うんですが、そういった中でどうやって若い女性の意見を通していくのか興味があるんですけど……。

清水：頭からダメとかそういうんじゃなくて私たちの意見も聞いてくれます。聞いた上でこうしたらいいんじゃないかと言ってくれる。

八島：棟梁や清水さんはわりと直線的なデザインが上手ですけど、私は曲線のデザインが好きです。例えば扉をアールにしたり、北欧的なデザインが好きです。

小見：北欧の家具って本当にいいですよね。自分の代だけじゃなくて受け継がれていくもの……。ところが最近の家具は合板でできていて、求め易い反面すぐ捨てられてしまう。ゴミの日なんかによく出ています。

岡崎：家具とかに対する認識がすごく甘いですよね。そういうのでいくと家もたぶん同じだろうし……。

小見：本物は使えば使うほど味が出てくる。古くなったから建て替えればいいわ、じゃなくて古い家なりに柱も土台もしっかりしていればいろんな風に改造して住みやすくできるんだから。

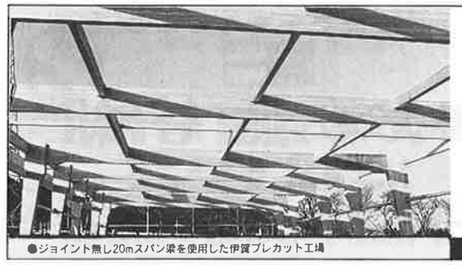
京谷：**昔は作る人が使う人のことを考えて作っていた**。今は使う人のことを見ないで作るから……。住まいも食料も洋服も……。ひどく言えば会社が儲かることだけを考えて作るからそういう変なことが出てくるんじゃないかなと思いますね。

清水：お客さんに「ああ、いいがになったねー」と言われると一番うれしい。

八島：自分の好みだけに走って作った作品は、形になった時にそれだけが一人歩きして……。自分勝手に作ったものは時間がたつとやっぱり後悔しています。

尾久：岡崎さんのお花の場合にも、やっぱり使う側っていうのは意識するものでしょうか。

岡崎：要するに精神に作用するものですから、その辺は本当にいかに使われるかってことがポイントで、それをふまえて自分は何が出来るかっていうことに……。自分の表現としてきれいなだけじゃない花っていうのが私にはあって、ちょっと言葉じゃ表現できませんが、自分が出せる、自分の中が見える、自分の生活空間が自分らしいく彩れれば、お花はそれが基本だと思います。主婦ならウチの人全員のことを考えてというところを私はすごく強調したいんですよ。


●ジョイント無し20mスパン梁を使用した伊賀プレカット工場

構造計画から施工までトータルヘルプ
ウエイコ・スーパー7工法　SUPER 7（セブン）
ウエイコのスーパー7工法は構造用大断面集成材を使用し、店舗・工場・住宅館等の大空間木造建築に幅広く用いられています。当社で扱う建築資材は、米国シェルトンストラクチャー社との製造協力により米国で製造・加工後直輸入されています。また、米国APAの検定、日本農林規格（JAS）の認定工場で生産されています。
●日本建築学会北陸支部会員
WACO CO.,LTD. ウエイコ株式会社
〒921 石川県金沢市間明町1丁目202 TEL0762-91-9701 FAX0762-91-9724
●設計・積算についてはお気軽にお問合せください

清水芽久美さん
（大工／島崎工務店）

八島さおりさん
（大工／島崎工務店）

尾久彩子さん
（三四五建築研究所
／広報部会）

京谷：主婦だけじゃなく、主人も家のことをちゃんとしてほしい……。

岡崎：そういうのどうしてでしょう？。自分のお金出して女房のしたいようにさせて、そんなフリフリの家で男性が気持ちいいわけないと思うんですよ。

京谷：働いてさえいれば生活をちゃんとしているという考えで男の人たちはきたんだと思うんです。頭の中では分かっているんだけど実際には出来ないんですよ。私の主人なども「おれだって出来る」というんですが、**「出来る」のと「する」のとは違う**っていうんです。

男と女、そして豊かさ

尾久：男と女の話になってきましたが……。

京谷：やっぱり生き方に対してどん欲っていうか、女性の方が強い。男の人の方がある程度の満足で、女の人は仕事も家庭も友達も……。**生きることに男性よりも執着心が強い**っていうか欲が深い。

岡崎：ボソッと決定打を出せばいいのにそれさえ言わないの。遠慮しているんじゃないかな。変な優しさがあって……、そんなの感じません？。

小見：やっぱり何か弱みがあるんじゃない。例えば女房の言うとおりに家を建てておけばあとは安心、何も文句は言われないと……。

尾久：男の人が一生懸命やっているように見えても、最終的に私たちが声をかけていかなくてはいけないというのはちょっと寂しいかな……。

京谷：家事というのは多種多様で広範囲にわたると家庭科の教科書に書いてある。愛情に基づいて、主体性があって、無報酬で、なんて女の人だけに出来るわけない。しかし、誰かのために何かをするということで得られることもある。そういう気持ちを育てるのが家庭科教育では大事なことではないかと思います。今年から高校の**男子にも家庭科を教えています。**

尾久：豊かさというとやはり心ですか……。ところでお若い2人は心の豊かさなんてどのように思います？

八島：友達の家に行った時に、襖の障子が春先に桜のピンクっぽい……。こんな生活はうらやましい。普通の主婦の方で、玄関なんかも草花で飾ったり、人が見て気持ち良く、楽しく、押しつけがましくなく……。ああこういう季節になったんだなあって実感します。

岡崎：だから、こう、消費を追っかけないこと。

京谷：自分の生き方というものがはっきりしている。

小見：お金をかけてこういうものを買ったからというんじゃなくて、**心の中にあるものを形に表せる**ような、消費するだけじゃなくて使いこなす、受け継いでいくっていうことが豊かさじゃないかな。

坪本：こんなに物の豊かな時代では、いかに物を持たないかという潔さが必要だと思います。便利な物を持っていくことによって失われていく心の豊かさになかなか気がつきませんが……、あれこれ考え工夫する、**お金をかけずに知恵を使う**、そうしたらもっと面白い生き方ができるのでは。

八島：豊かさというと難しいことのように思えるけど、実はちょっとしたことなのではないかな。小さいことだけど、そういうことに気づくことが大事かなあ……。

尾久：皆さんのお話をうかがっていると、今、自分がちょっと立ち止まって、自分の「豊かさ」をまず確認することから始めたら……というように強く思いました。今日はどうもありがとうございました。

（1994年7月9日収録）

カラーコピーと手軽な印刷
カドヤ文具店
プリンティング・ルーム・カドヤ/大学前コピーセンター
福井市文京4-4-22 〒910 TEL.0776-22-7731 FAX.22-7873

技術で未来を考える
KUMAGAI
株式会社 熊谷組
代表取締役社長 熊谷太一郎
常務取締役北陸支店長 木内昌治
本社／東京都新宿区津久戸町2-1 TEL(03)3260-2111(大代)
福井本店／福井市中央2丁目6-8 TEL(0776)21-2700(代)
北陸支店／金沢市広岡3丁目1-1 金沢パークビル6階 TEL(0762)33-5700(代)

初めての現場体験

私は、いつもは会社の中で積算をしたり図面を書いたりしています。しかし、入社2年目にして、今回初めて現場に出て作業することになりました。主な仕事内容は「墨出し」でした。はじめは、見る物、すること、すべてが初めてで、言われることをこなすことが精一杯でした。いいえ、たぶん言われたことの半分も出来ていなかったと思います。

毎日、30度を超える炎天下の中作業することで、現場の大変さが身にしみて感じました。そんな中、私は、恥ずかしながら何度も会社に戻りたいと思いました。でも、誰かがしなければならないとか、少しずつ建物ができてくる感動も覚えました。施工という方に携わってみて、自分が少しでも手を加えたものが、今、沢山の人によって出来上がって来てると思うとすごくうれしく思いました。

今回は2週間余りの体験でしたが、そこで得たものは現場に出てみなければわからないものを沢山教わったような気がします。この体験を生かして今後の仕事に役立てて行きたいと思います。

―林建設工業株式会社・柿澤佐和子

都市の夏の楽しみ

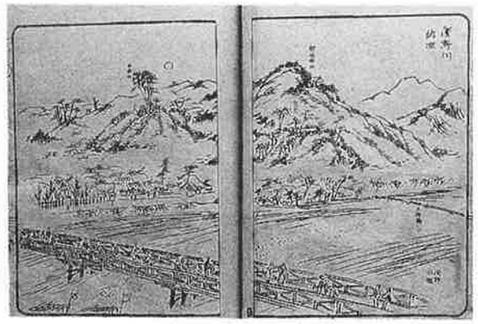
暑苦しい夜、一服の清涼を求めて人々は水辺に集まる。かつて金沢では犀川や浅野川へ涼を求めた。なかでも、両大橋には飲食物の店や見せ物など種々の店が立ち並んで賑わい、しばし暑さを忘れ、夏の風物詩を楽しむ場所であった。

浅野川大橋に近い懸作りは、藩政期から昭和の初めにかけて金沢一の繁華街であったことから、夕涼みの人出を対象とする各種の店が出た。藩末の『亀の尾の記』には「涼みの頃は左右に所せまきまで店を設け、高麗物・菓物・ひやしもの・札から・のぞき・チョン枯或はをどり・歯医者・こま廻しの類挙げて数ふべからず。橋詰両がは酒店にて、種々珍肴をつらねて鬻ぐあり。」と現在からは想像もできないほどの賑わいの様子が記述されている。

一方海水浴がはじめられたのは我が国では比較的新しいことであるが、金沢での海水浴は当時の新聞記事から推定して、明治26年に金石の料亭松葉楼が私的に開設したものをその端緒とすると考えられる。金沢の中心部から、金石までは徒歩または馬車鉄道を利用して往復したのであり、当時の新聞記事には市内の医者の父娘が頻繁に海水浴に徒歩で訪れている様子を述べているものがある。

このように戦前においては、都市生活において夏の風物を楽しむ身近な自然と余裕があったことが伺える。

―地域振興研究所・丸山　敦



（平岩晋『金城勝覧図誌』（明治41年）より浅野川納涼）

誠実と信頼でより豊かな明日を創る。
SUZUKI GROUP
鈴木建設株式会社
本社 石川県金沢市清川町5番3号 〒921 TEL.(0762)41-7361 FAX41-7365
営業所 石川県松任市相川新町546番 〒924 TEL.(0762)76-6801

しあわせづくり、夢づくり
ダイワハウス
大和ハウス工業株式会社
DAIWA HOUSE INDUSTRY CO.,LTD.
金沢支店／金沢市有松3丁目6番24号 ☎(0762) 44-5111

「壊そして残」

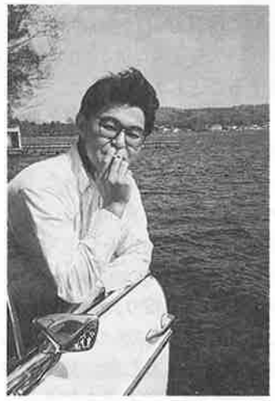
趣味で写真を撮っている。しばらく前まではきれいな風景写真を撮りに歩いた。しかし、完璧な場所などなく、きれいなところだけを切り取ることになる。コンクリートやゴミなどがファインダーに入らないようにカメラをセットする。出来上がった写真は確かにきれいではある。しかしこれは現実ではない。写真は決して真実を写すものではない。現実の一部をカメラマンの主観で切り取ることに他ならない。そうなれば問題は自分の主観そのものだ。そんな事を考えるうちに、むしろ今まで切り捨ててきた部分こそ、自分が表現すべき現実ではないかと思えてきた。自然をぶち壊し、取り返しのつかない醜さだけを残していく人間の傲慢さを。

先月私の属する会主催のピアノ・コンサートがあった。即興演奏のための川のスライドを求められて撮ってきた。「きれいな写真を」という注文であった。やはり空しさが残った。これは現実ではない。現実はコンクリートが張りめぐらされ、ダム建設で不安を強いられている姿だ。

古いアパートの解体現場の写真を、先日ある写真展に出品した。題して「壊そして残」。今日の文化的醜さはこれに尽きると思う。かつての家は解体して柱や梁は再利用ができた。今は膨大なゴミになるだけだ。原発しかり、ダムしかり。ゴミの文化を写真表現してみたいと思う。

—足羽川の清流を愛する会・野世信水

後天的信州人の複雑な心境



『どうして？』

この質問も最近はめっきり聞かなくなりました。信州大学の学生だった時分、長野市役所の受験を決意したころには、周囲から幾度となくこの言葉を浴びせられたものです。というのも、私のような県外出身者によるこの種の選択は、当時の長野市としてはまだまだ珍しかったからでした。

『ここに住みたい』

周囲の様々な詮索をよそに、本人の胸中は極めて単純なものでした。コンパクトな中心市街地には慌ただしさがなく、少し足を伸ばせばすぐに豊富な自然を満喫できる。明確な四季が感じられ、精神的なゆとりに溢れた生活環境。自分にとってはまさに打って付けの土地柄だと思ったからです。

『オリンピックが来るから？』

ところが、長野市が第18回のオリンピック冬季競技大会開催都市に決定して以来、先の質問の後には必ずといってよいほどこの一言が付加されるようになりました。実際にそのような人が増えてはいるのですが……。

入庁後、オリンピック局施設課に配属となった私は、施設建設の最前線に身を置きながら市内の景色が様変わりするその早さに目を見張っています。1998年に向かって、長野市はさらに大きく変貌することでしょう。都会的ルックスのつんとすました都市へと脱皮するのではなく、朴訥だが表情豊かな信州の良さを、随所に漂わせたより魅力的なまちに成長することを心から願っています。

—長野市役所・三浦　敦

MIYAMOTO ARCHITECT

長野市柳原1875－1
TEL0262-41-5510　FAX0262-43-0187
東京都中野区東中野1-54-1新松ビル
TEL03-3362-9988　FAX03-3362-9987

緑峰舎

株式会社 宮本忠長建築設計事務所
株式会社 宮本環境デザイン研究所

官・民・学の架け橋

支部ニュースは人間情報誌をめざし初年度のメインテーマは「女性と建築」とのこと。この主旨にピッタリの方が、新潟大学教育学部で住居学を教えておられる五十嵐由利子教授である。

先生の研究のテーマは積雪地域の住宅と住環境ということで、地域に密着した研究をされ、その中でもとくに高齢者の住環境整備に深く関わっておられる。

私が先生に初めてお目にかかったのは、数年前に建設省と厚生省が今後の高齢社会の到来を見据えて公共住宅と福祉施設の連携整備を進めるべく調査を全国4地方都市で行った際に、先生が新潟地区の委員長をなさった時であった。

私達ワーキングは、内容がかなり盛りだくさんということでとても苦労したのであるが、その度々の委員会における先生の硬軟とりまぜた軽妙な進行に皆すっかりファンになってしまった。

その後先生の研究室において、一般の方々を対象とした「建築と子供たち」の勉強会にも参加させていただき、『子供たちにどういう形で建築に関心を持たせたら良いか』ということに熱心であることを知らされた。一昨年から学会の主催で「親と子の建築講座」を新潟でも行っているが（写真）、先生の講座「雪国にもこんな公園があったらいいな」や「今日はわたしも設計士」は好評である。

現在ご主人は東京に単身赴任、二人の娘さんも大学生で新潟にはおらず番犬と二人？暮らしとか……。晩酌の量が増えないことを祈るばかりである。

—㈱建構造研究所・梶井佐知子

シリーズ 北陸の酒 ～辛さを感じさせない辛口～

「淡麗辛口」。これが新潟県の清酒に共通したキーワードです。辛口なれども呑み口まろやか……と云ったところでしょうか。酒造りにはよく米・水・気候・杜氏の技術の4拍子が揃っていることが条件といわれますが、良い米と清らかな水の豊かな新潟県は美酒のみならず美人の産地としても定評（？）があるようです。ところがその豊かな新潟の水は殆どが軟水あるいは超軟水に分類され、もろみを発酵させる仕込み水としては不向きな水であった（超軟水では一般に発酵しないと云われている）という事は新潟県醸造試験場長の鈴木さんに伺ってはじめて知ったことでした。この不利な条件を克服し、数々のおいしい酒を生みだし「新潟に銘酒有り」と云われるようになったのは越後杜氏の技術と蔵元の知恵の賜といわねばなりません。

ところが更に硬度の低い「極軟水」を仕込みに使っている酒蔵があったのです。越後の武将上杉謙信が幼少時代、また青年武将として14歳から19歳までを過ごした地、栃尾市の諸橋酒造さんです。裏山に横に穿った井戸から沁み出す水（硬度0.47）で造った酒は関東信越国税局酒類鑑評会で何度も入選しているほどの美酒。醸造試験場の人をして「お化け水」と云わせたその水は「横井戸であるが故に水が空気と触れる割合が多く、硬度だけでは計り知れない要因が加わっているのでは？」と五代目蔵元の諸橋さんの話。その不思議な水で仕込んだ清酒“景虎”は私には淡麗辛口の極みであると感じられました。酒を愛された謙信公ならばどのように評されたでしょうか。

—新潟支所・T.K

（諸橋酒造の冬季遠景）

株式会社 福田組
代表取締役社長　福田　実
本社
〒951 新潟市一番堀通町3番地10
TEL.025-266-9111(代表)

創ります。人と自然と文明の共存を。
HONMA
株式会社 本間組
代表取締役社長　本間　茂
本　社　〒951 新潟市西湊町通三ノ町3300-3
TEL. 025-229-2511(大代表)　FAX. 025-222-0657